

令和5年度 学校評価書(共通) 後期

校名

宇和島市立北灘小学校

1 自己評価書

教育目標 「北灘を愛し、心豊かに、生き生きと活動する児童の育成」 スローガン「輝く瞳 北灘のために！」						
基本方針 北灘地区の文化と伝統、地域人材を生かし、ふるさとに愛着を持ち、心豊かに生き生きと活動する児童の育成を目指して、保護者や地域と共に歩む学校づくりを推進する。						
本年度重点目標 ①複雑で予測困難な社会の変化に対応するための豊かな知識・技能を習得させ、想像力を高める教育の推進する。 ②多様な人との協働的な活動を通して、個のよさを実感させ、それぞれの可能性を伸ばす。 ③児童が健康で安全に過ごし、心身ともに安心して学校生活を送ることができる環境を整える。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用 自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A B	B	
	②	授業改善 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B	
			・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A		
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A		
	③	家庭学習の充実 家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B	
	④	読書活動の充実 読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C B	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進 社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
	<p>(成果と課題)○ 具体的な学習課題を提示したことや振り返りの時間を確実に確保したことが、学習内容の定着及び意欲の向上につながった。 ○ 読書集会を実施して以降、図書室の貸出し冊数や来室者数が増加傾向にある。前期に比べ、児童の読書活動に対する肯定率が向上した。 ○ 防災事前復興教育プロジェクトでの主体的な学習を通して、児童の地域を大切に思う気持ちが育っている。 △ 家庭での読書活動をあまり好まない傾向は、依然として継続している。</p> <p>(改善策等) ・ 読書習慣が更に身に付くよう、読み聞かせや本を紹介し合う活動を継続して行うとともに、保護者へ読書についての認識を説明し、協力を仰ぐ。 ・ 地域の方を学校にお招きし、これまでの感謝を伝える「ありがとう集会」を予定している。その活動を通して、地域に対する誇り・愛着を更に醸成していく。</p>					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上 規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
②		児童生徒の健全育成 児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B		
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A		
③		基本的な生活習慣の徹底 基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A B	A	
④		自己肯定感 等 自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B	B	
			・教師アンケート ・児童アンケート	B A		
<p>(成果と課題) ○ 全体的に児童アンケートの数値が向上している。年度初めに生活アンケート見直しを行ったり、教育相談の毎月実施したりするなど、生徒指導体制の充実を図った成果であると言える。「校内の雰囲気は落ち着いている」と、スクールガードリーダーから報告を受けた。 ○ 児童の頑張りを大いに賞揚したり、児童が互いの長所を伝え合う時間を設定したりすることが、児童の自己有用感を高めることにつながった。 △ 保護者が安心して児童を学校に通わせることのできる学校づくりに課題がある。</p> <p>(改善策等) ・ 前期より取り組んでいた職員朝礼での情報交換、教育相談を継続させながら、これまで以上にきめ細かな児童への対応と生徒指導の充実を目指す。また、日頃から児童及び保護者との関わりを大切にすることはもちろん、学年通信等を通して児童の学校での様子や頑張りを伝えていく。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがい重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	② 働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
・教師アンケート			A	A	
③ 他の教職員のサポート体制の充実		「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
<p>(成果と課題)</p> <p>○ これまで休日に行っていた活動を授業時間に組み込んだことは、児童の活動の機会均等になるとともに、児童・保護者・教職員共に休日の休養につながった。</p> <p>○ 音楽会に向けての練習を大きく減らしたが、ゴールイメージをもち、計画的に準備したことで確実に成果を上げることができた。</p> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員にとっても、児童にとっても無理のない教育活動となるよう、各教科主任が中心となって年間指導計画の見直しを徹底する。</li> <li>・ 休日に開催される任意参加の大会・イベントについては参加するかどうかも含め、行事の精選や見直しを図る。</li> </ul>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
・保護者アンケート		A			
③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	C		
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 後期も毎日欠かさずホームページを更新し、児童の学校生活の様子を積極的に発信することができた。</p> <p>△ 保護者の方々に来校しやすく、相談しやすい学校づくりを推進していく必要がある。</p> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き学校運営協議会の議事録を作成・配付し、学校運営協議会で話し合われた内容について周知していく。</li> <li>・ 誠意ある対応を心掛け、保護者の方と相談する時間を大切にしながら、児童一人ひとりにあった支援体制づくりにつなげていく。また、学校生活や児童の様子などの情報を積極的に発信することで、家庭との連携・協力関係づくりに取り組んでいく。</li> </ul>					
<p>＜評価基準＞ A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満</p>					